

《履修上の留意事項》この実習は、前期に開講する事前講義と3日間の見学実習、後期に開講する見学後セミナー、事後講義で構成される。

《担当者名》○武田涼子 r-takeda@hoku-iryo-u.ac.jp 小島悟 鈴木英樹 吉田晋 高橋尚明 大須田祐亮 佐々木祐二 長谷川純子 澤田篤史 岩部達也 佐藤一成 多田菊代 中村宅雄 山根裕司 只石朋仁 河治勇人

【概要】

本実習では、事前講義、施設見学（急性期あるいはそれに準じる施設、回復期施設、保健・福祉施設の三施設）、学内セミナーおよび事後講義を通して、各施設における理学療法士の業務全般の理解、関連職種との連携、あるいは各施設の社会的役割等を把握し、理学療法士の職域の広がりや地域社会における役割についても理解する。

【学修目標】

理学療法および理学療法士業務の実際を理解するために臨床の現場において理学療法の見学を行い、理学療法の具体的内容や業務内容を説明できる。

1. 医療機関や保健・福祉施設の業務内容や社会的機能を分類し、説明する。
2. 医療機関や保健・福祉施設内における理学療法部門の位置づけを説明する。
3. 理学療法士は対象者に対してどのような評価・介入を行っているか説明する。
4. 社会人、理学療法士として、ふさわしい言動や態度を示す。
5. 医療機関や施設内における関連職種との連携体制について、その概要を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	理学療法の流れ	臨床実習の日程、進め方、課題とその提出、評価の仕方について理解する。 急性期・回復期・生活期における理学療法の違いを理解する。 実習生としての言動や振る舞いについて理解する。	武田涼子 澤田篤史 岩部達也
2	中枢神経疾患の理学療法	中枢神経疾患における、急性期・回復期・生活期理学療法の違いを理解する。	吉田晋
3	骨関節神経疾患の理学療法	骨関節疾患における、急性期・回復期・生活期理学療法の違いを理解する。	武田涼子
4	内部疾患の理学療法	内部疾患における、急性期・回復期・生活期理学療法の違いを理解する。	澤田篤史
5~6	グループワーク	実習施設の概要調べ、見学目標の設定。	武田涼子 澤田篤史 岩部達也
7~9	見学実習（3日間）	急性期医療施設、回復期医療施設、保健・福祉施設をそれぞれ1施設ずつ見学する（1施設/日）。	担当者全員
10~11	学内報告会	実習で学んだことを共有し、学びを深める。	担当者全員
12~14	理学療法体験	理学療法における、評価、運動療法、物理療法、基本動作練習、動作介助について体験する。	担当者全員
15	まとめ	一連の講義と実習を通して、理学療法士になるための行動目標、達成目標についてまとめる。	武田涼子 澤田篤史 岩部達也

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

事前講義評価（レポートと確認試験） 30%

見学報告会評価（見学内容に関する報告とレポート） 40%

事後講義評価（レポートと確認試験） 30%

【教科書】

必要に応じて、講義資料を配布する。

【参考書】

藤澤宏幸 著 「理学療法の基層 人間学としての思想に向き合うための15章」 北樹出版 2016年

【備考】

「臨床実習の手引き」を配布する。

1～9は前期開講、10～15は後期開講とする。

【学修の準備】

「臨床実習の手引き」と配布資料を熟読し、実習に必要な準備をすること。

【見学日程】

見学時期は追って説明する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

（DP5）国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を實踐できる能力を身につけている。